

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

たつの市立小宅小学校（兵庫県）【指定校】

【取組内容】アプリを活用し、子どもの気づきを広げ、共有する

1 年国語 「むかしばなしをよもう」：アプリを活用し、子どもの気づきを広げ、共有する。

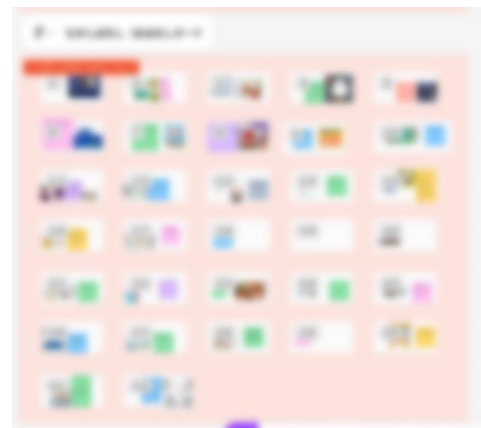
- 1, アプリ上で本を選び、スクリーンショットを撮る。
- 2, 選んだ本を読み、気づいたことをデジタルホワイトボードに付箋でメモを取り、スクリーンショットでとった画像とともに貼りつける。
- 3, 友だちの作品を見合って、次回の授業につなげる。



これまでに生活科などで個人で数回デジタルホワイトボードでの作業を行ってきたが、班でセクションを使った協働で行うのは初めてで友だちの作品を消してしまったり、大きくしすぎてしまったり、情報活用能力の課題点が見られた。しかし、みんなで改善点を考えることで一人一個のセクションを使うことや、スタンプの大きさなどの決まりを自分たちで決めることができた。



前回の決まりを注意しながら作業をすることで、時間が短縮できた。感想の振り返りの時間を十分に確保することができたので、友だちの付箋を見ながら、次回の本を決める時の参考にして、次の本を決める児童が増えてきた。



同じような活動を繰り返すことで子どもたちのほうが慣れ、本の表紙のスクリーンショットだけでなく、気になったページなどもスクリーンショットして貼っていた。付箋の内容を友だちに見てもらえるので、どんどん文字数が増えていく児童が増えた。